

第1回 嘉麻市学校施設整備審議会 会議録

1. 審議会等の名称 平成29年度 第1回嘉麻市学校施設整備審議会
2. 開催日時 平成30年1月25日(木) 19:00~20:30
3. 開催場所 嘉麻市役所 嘉穂庁舎2階 第1会議室
4. 公開又は非公開の別 公開
5. 非公開の理由(会議を非公開とした場合のみ)
6. 出席者
 - (1) 委員
会長 安永卓生
副会長 永富靖人
委員 赤崎和徳、野上真吾、村上曙生、飯田千鶴美、
坂田勲、中村忠紀、福永貴義、古賀修治
*欠席委員2名 松隈志津、三谷章子
 - (2) 執行機関
教育長 木本寛昭、学校教育課長 柴田きよみ、学校教育課参事 大森雅明、
学校教育課長補佐 赤坂晋、教育企画係長 山本匡貴、教育企画係 山口陽子
7. 傍聴人数(会議を公開した場合のみ) 0人
8. 議題及び審議の内容
 - ・教育長あいさつ
 - ・委嘱書交付
 - ・委員及び事務局職員自己紹介
 - ・審議会の目的

【議題】

- (1) 会長及び副会長選任について
- (2) 諮問
- (3) 審議会の審議内容・スケジュールについて
- (4) 学校施設の現状について

【審議の内容】

- (1) 会長及び副会長選任について
委員の互選のもと、会長及び副会長が就任した。
- (2) 諮問
学校施設整備審議会へ諮問を行った。(事務局)
- (3) 審議会の審議内容・スケジュールについて
審議会の審議内容やスケジュールについて、資料1に沿って説明を行った。(事務局)

(4) 学校施設の現状について

- 平成21年度策定の嘉麻市学校施設整備基本計画について、説明を行った。(事務局)
- 学校施設の経過年数や現状について、大規模改造工事からの経過年数とともに資料2に沿って説明を行った。(事務局)
- 学校施設の耐用年数について、資料3に沿って説明を行った。(事務局)
- 校舎・体育館にかかる主な改修・補修履歴について、資料4に沿って説明を行った。
(事務局)
- 劣化度評価平均点、学校プール経過年数、給食の状況について、資料5に沿って説明を行った。(事務局)
- ハザードマップ(土砂災害)について、資料6に沿って説明を行った。(事務局)

説明を受け、審議を行い、次のような質問や意見が出た。(委員)

- 現在の児童生徒数及び将来における推計児童生徒数はどのくらいか。
→現在の児童生徒数と将来20年見込み児童生徒数を次回審議会で提出する。(事務局)
- 25年後の計画が出ているが、嘉麻市全体の人口が減少し児童生徒数も減少する中で、学校施設整備の考えはどのようなものか。できる限りそれぞれの地域の中で育んでいける学校を残し、地域を超えて遠くへ移設することは回避してほしい。
→児童生徒数が減ったとしても、少なくとも5中学校区に学校を1つずつ残していきたいと考えている。(事務局)
- 同じ地区に2重3重に経費をかけることのないようにしてほしい。各中学校区で中学校1つ、小学校1つ等合併していくことも必要ではないか。人口が少なくなること、財源が乏しくなることを十分に考慮して取り組んでほしい。
- 市内に志耕館高等学校があるが、将来的に中高一貫の計画はないのか。
→現在のところ中高一貫については検討していない。(事務局)
- 様々な財源措置を考えながら自治体の方に負担がかからないようにしてほしい。
合併特例債は学校整備にも使用できるのか。また、期限はいつまでか。
→合併特例債に関して、今の法律では平成32年度までが期限であり、嘉麻市全体の枠として借りられる金額も決まっている。学校整備に充てられるかは、答申をもとに市長部局と協議していく予定。(事務局)
- 将来的に校舎は必要なのか。在宅でもネット等で勉強はできるのでは。校舎がなければ改修などの問題も無くなるのではないか。また、コミュニケーション能力は地域で作っていけると思う。
→教育委員会が中学校校区に何らかの形で学校を1つずつ残していきたいとしている理由として、学校が地域のコミュニティの核になっていると考えているからである。子どもは、子ども同士だけの横の連携でも、学校だけでも育たない。嘉麻市が目指すのは、学校であったり、地域であったり、保護者であったり、多くのコミュニティの中で子どもたちが育っていくことである。(事務局)
- 小学校では、年齢で発達段階がある。社会性やコミュニケーション能力をつけることが一番の大前提で、そのために集団で切磋琢磨しながら学習や協力することが大切である。

そういった意味では校舎は必要だと思う。

○熊小のように地域に開かれた学校は、学校という施設が拠点となり、地域のコミュニティの場となっている。

○大学でも、学校が単に知識伝達ではなく、お互いの会話や横の関係や縦の関係など、様々なところでコミュニティを作っていく場であることが、これからの学校の在り方のひとつであると言われている。

○飯塚市には小中一貫校があり、1年生から9年生まで同じ学校に通っている。そこで感じたことは、中学生が優しくなるということ。人が集まることの意味を改めて感じた。

○学校を細分化した場合の費用と、大規模で一括化した場合の費用の差を知りたい。

→既存校舎を改築した場合と、一体型で改築する場合の費用対効果の比較資料を次回審議会で提出する。(事務局)

9. 配布資料

(1) レジюме

(2) 第1回嘉麻市学校施設整備審議会 資料

【資料1】審議内容について、審議会のスケジュール

【資料2】施設経過年数と現状

【資料3】学校施設の耐用年数一覧表

【資料4】主な改修履歴（H24年度～）

【資料5】劣化度評価平均点、学校プール経過年数、給食の状況

【資料6】ハザードマップ（土砂災害）

(3) 学校施設整備基本計画（平成21年度策定）

（会議終了後に回収済み）